

自然体験イベント事故情報一覧表(2008年～2012年度発生分)

No.	事故名	事故状況	事故処置	公益社団法人 大阪自然環境保全協会				2014.12.26						
				総務部コメント				年齢		性別		発 生		
				高齢	成人	子供		男性	女性	年 月	場 所	グループ		
1	ハチに襲われる	子供がハチの巣を棒でたいたら、中から大量のハチが出てきて子供を襲った。	子供を現場から遠ざけて刺された部位を確認し、すぐ行事を中止して病院に。					○	○		2005?	里山	観察会	
2	ムカデに刺される	セミ羽化の観察会中、ムカデに刺された。	救急担当者が消毒等の処置をし、共催行事だったので共催者に連絡事後を任せる。 (推定原因と再発防止策)観察会の際の服装が軽装だった。(虫よけ対策は伝えているが)夏でも長袖、長ズボンの徹底。	左欄の推定原因と再発防止策に同じです。							2010.7		観察会	
3	ハチに刺される	保全活動見学中、ネザサの茂った周回路移動中に刺される。	ハチ等の攻撃を避けるために現場を離れ、スタッフから携帯の吸出し器具で応急手当てを受け、病院に行く。 (推定原因と再発防止策)下見時に蜂に出会わなかったこともあり季節的に安心して確認不足も。現場ごとのKYK活動の徹底。救急セットの班ごとの携帯。「安全対策」講座等で関心を高める。	左欄、推定原因と再発防止策に同じです。ハチに刺された時の対症法は、リスクマネージメント研修会テキスト「危険生物(指導者版)著者:佐藤仁志氏」6ページを参照ください。次のとおりとなっています。①冷たい流水で患部を洗いだしながら毒を血液と一緒に絞り出す。この時専用の絞り器があると便利。②痛みや腫れは水や保冷剤で冷やす。③市販の抗ヒスタミン剤を含んだステロイド軟膏を塗る。④気分が悪くなったり息苦しくなったりした場合はショック症状の前兆の可能性が高い、すぐに病院に行き治療を受ける。	○				○		2010.11	里山	講座	
4	スズメバチの大群に襲われ	観察会中、スズメバチの大群に襲われる(3匹に左後頭部、右背部を刺される。)	ポイズンリムーバーで吸出し処置後救急搬送。						○	○	2011.10	里山	講座	
5	オオスズメバチと接触	公園内の昆虫調査中にオオスズメバチと接触。	救急搬送。						○		2010.9	公園	保 全	
6	顔を虫に刺される	観察会の下見中に、顔を虫に刺されて痛みと熱く熱をもって腫れてきた。	虫の種類が分からないので患部を冷水で冷やした。 (推定原因と再発防止策)長袖、長ズボンの着用と虫除けスプレーの使用。	左欄の推定原因と再発防止策に同じです。					○		2011.9	公園	講座	
7	チャドクガに接触	環境調査中、草むらでチャドクガに接触	環境調査中、草むらでチャドクガに接触	毒方に刺された時の対症法は、リスクマネージメント研修会テキスト「危険生物(指導者版)著者:佐藤仁志氏」22ページを参照ください。次のとおりとなっています。①ガムテープなどで毒針毛を除去する。刺された箇所を洗い流す。③市販のかゆみ止めや抗ヒスタミン剤を含んだステロイド軟膏を塗る。④かゆみが強いときには病院に行く⑤ちくちくしたとき、体をかきむしらないことが肝要。数時間後まで毒針毛が残っており、かきむしることによりより深く毒針毛を差し込まれる。					○		2011.6	空き地	保 全	
8	背中を虫に噛まれる	セミ羽化観察会中に痛みを感じ、虫に噛まれたような腫れが2～3あり。	救急セットのポイズンリムーバーを傷口に当て吸出した。翌日通院。虫除け等の塗布。						○		2010.7	公園	観察会	
9	腰を振じる	比較的大きな転石に腰掛けて昼食中、転石動き腰を捻じた。	そのとき痛みがなくて観察会に参加。帰宅後通院して捻挫と診断される。 (推定原因と対策)不安定な石に腰かけていたため。食事は必ず地面に腰を下ろし								2002.3	河川敷	講座	
10	足を滑らせて転倒	宿舎に戻る途中、急な階段を終えた後の緩やかな坂道で足を滑らせて転倒。	湿布して固定。帰宅後通院。 (推定原因と対策)グループから先行しての行動中、急な階段を下りて緊張が緩む。						○		2010.10	道路	講座	
11	急な坂道で滑り転倒	山の整備作業終了後の帰路、急な坂道で滑り転倒。		無事に帰宅するまでが行事の範囲です、解散時にこうした事故事例を紹介し注意を促しましょう。なお、保全協会が加入するボランティア保険は自宅と集合・解散場所までの往復経路の事故も対象になります。	○				○		2010.9	道路	保 全	
12	登山中に転倒し捻挫	合宿に参加するため一人で登山中に転倒、擦りむき出血状態で集合場所に。	負傷箇所を消毒(本人が大丈夫というので講座に参加)。						○		2011.7	里山	講座	
13	蛇に指をかまれる	下見時に道路に出てきた蛇(ヒバカリ)を掴もうとして人差し指を牙で切られる。	すぐに傷口から血を吸出し消毒。 (推定原因と再発防止策)小さい蛇と油断。危険な行為をやめ観察にとどめる。毒のある生き物もあり十分に対応することができる救急セットの充実が必要。	毒蛇に噛まれた時の対症法は、リスクマネージメント研修会テキスト「危険生物(指導者版)著者:佐藤仁志氏」8～18ページを参照ください。					○	○	2012.9	溪谷	観察会	
14	鎌で指を切る	草刈イベントで、雑草を刈取る際に鎌(の刃)で左中指を切る。	救急搬送。						○	○	2011.9	森	保 全	
15	工作时負傷	自然物を使つての工作时。	傷口を消毒してバンドエイドを貼る。							○			公園	観察会
16	段差で転倒し右腰を強打す	東屋で冬芽を顕微鏡で観察中に東屋仕切り段差でバランスを崩し転倒、右腰を強打。	帰宅後に通院、打撲と診断。 (推定原因と再発防止策)観察中に夢になり段差に気がつかなかった。フィールドでの段差周知。事故状況の周知。						○	○	2011.2	公園	観察会	
17	段差に躓き膝を打撲	駅前の歩道の段差につまづき、膝を打撲。								○	○	2013.2	道路	観察会
18	机を足に落し骨折	研修で使用した会議用机、椅子の片付け作業中、机を足に落下。	帰宅後通院。						○	○	2008.4	研修室	講座	
19	脇腹を強打	宿泊中、室内でつまづき転倒。備付けの木製のテーブルで脇腹を強打。							○	○	2008.11	室内	講座	
20	自転車運転中に左足打撲	竹林整備の実習後、自転車で帰宅途中、マンホールの蓋で前輪がスリップ。左足打撲。		No.10と同様です。	○				○		2010.2	道路	保 全	

No.	事故名	事故状況	事故処置	総務部コメント	年齢			性別		発 生		
					高齢	成人	子供	男性	女性	年 月	場 所	グループ
21	小枝が落下し骨折	間伐作業中、倒木する際かかり木したので枝を切離すように指示した際小枝が落下。		間伐作業における安全な作業については、(社)全国林業改良普及協会発行の「森林づくりボランティア手帳」をご参集ください。	○			○		2009.11	里山	保 全
22	自転車で転倒	行事終了後、自転車で帰宅途中、下り坂で転倒。		No.10と同様です。	○			○		2008.7	道路	保 全
23	川に落下し打撲	調査中に堰堤の仮設橋を渡る際、バランスを崩して川に落下。2.0m位流される間に、コンクリート、岩等で打撲、擦傷			○			○		2011.9	川	保 全
24	網に気づかず転倒	観察会で説明中、網が地面に垂れていたのに気付かず転倒。			○			○		2008.4	道路	観察会
25	河原で滑って腕打撲	河原で滑ってこけ、手でささえる。	救急措置として腕を固定。 (推定原因と再発防止策) 帰宅後通院。落ち葉何かで滑った。		○			○		2007.9	里山	講 座
26	ふくらはぎを傷める	アイスブレイクプログラムの練習中、左足ふくらはぎを後から強く蹴られた形となり傷める。	帰宅後通院。 (推定原因と再発防止策) プログラムに夢中、偶発的。プログラム実施前にお互いが接触することへの注意喚起と準備体操。			○		○		2012.9	公園	講 座
27	足をとられて骨折	青少年自然の家敷地内の低山を下る途中、枯葉に足をとられて滑ってこけた。	湿布で応急措置しスタッフがおぶって下山し車で病院に搬送。 (推定原因と再発防止策) 乾いた砂状の地面に落ち葉あり滑りやすい状況と判断できなかった。落ち葉で地面の状況が隠れるので用心してもらおう。		○			○		2008.11	山	講 座
28	杉の枝で骨折	間伐中に落ちてきた杉の枝に当たる。杉の枝は簡単に折れる。	(推定原因と再発防止策) 「注意する」以外に防ぎようがない。全周にツバのあるヘルメットの着用も有効か。	No.21と同様ですが、間伐などの作業には、間伐材の落下衝撃防止のためヘルメット着用は必携です。	○			○		2009.11	里山	保 全
29	脇腹を骨折	講座プログラムの現場作業日、作業で使用した軽アイゼンを水槽の水で洗浄中に足を滑らせバランスを崩し、脇腹を水槽の角で強打した。	痛みが落ち着いてから帰宅し通院。 (推定原因と再発防止策) 水槽の前の地面が粘土質の塊で盛り上がり傾斜していたのと前日の雨で足場がぬかるんでいたことで足を滑らせた。障害となった粘土の塊を取り除き地ならしした。寒害地以外でも常に足下の安全確認の指導。		○			○		2013.2	里山	講 座
30	滑って転倒、右手骨折	哺乳類調査中、木製の板の上を歩いていて滑って転倒。右手骨折。				○		○		2008.10	公園	保 全
31	小枝が落下し骨折	間伐作業中、小枝が左肩に落下。		No.21と同様です。	○			○		2009.11	里山	保 全
32	転倒し骨折	講座の自然観察会企画プログラムの下見・考案で野外を散策しており階段路から平坦な所に降りた所で転倒、負傷。	プログラム参加を取りやめスタッフ同行で帰宅、通院。 (推定原因と再発防止策) 転倒の障害、原因を特定できず。			○				2007.9	山	講 座
33	トイレに閉じ込められる	観察会で昼食をした河川敷の公園にあるトイレで鍵が壊れ閉じ込められた。	付近にいた人が気付き、公園管理人が鍵をはずして救出。 (推定原因と再発防止策) 仮設トイレの不備。公園等でも危険なことを想定した安全対策が重要。			○		○		2009.10	公園	観察会
34	左目直撃、角膜受傷	センターが主催する「栽培体験教室」に参加。台に乗って杭打ち作業を終えた後、振り向きながら台から降りたら、振り向いた先に別の杭が出ていて、左目を直撃してしまった。	直ぐに眼科に受診。 (推定原因と再発防止策) 作業周囲の安全注意が足りなかった。移動するときや道具などを扱う際は周囲に注意を払おう。			○		○		2011.5	室内	観察会
35	ウルシにかぶれる	樹木調査した翌日、顔、首、腕等に発疹、かぶれ。(ウルシ科ハゼ類によるもの)		ウルシにかぶれた時の対症法は、リスクマネジメント研修会テキスト「危険生物(指導者版)著者:佐藤仁志氏」29ページを参照ください。ウルシなどのかぶれは一部の人だけに発症することや、1～2日後に症状が出ることで、その原因が分からないことが多いため、専門医の治療を受けることです。 No.21と同様です。		○		○		2008.11	里山	保 全
36	竹の先が指に刺さる	間伐作業時、埋もれていた竹の先が右手中指に刺さる。	現地で応急処置、帰宅後通院。		○			○		2008.8	里山	保 全
37	とげが刺さる	自然物を使っのての工作時。	スタッフがとげを抜き、傷口を消毒しバンドエイドを貼る。				○				公園	観察会

凡例

- 「事故状況等」欄には回答に記載があった事故状況、処置、原因、再発防止対策等を要約して記載。
- 空白欄はアンケートに無記入
- 総務部コメントは特記すべき事項を記載した。